

新型コロナワクチン接種の判断はどのように行われているのか～ 情報源、話し相手、自身の経験

渡邊万琴¹ 折田明子¹

概要：本研究は、新型コロナワクチンの接種を判断する際に、接触するメディアや、家族や友人・知り合いといった実生活上での相手とのコミュニケーションがどのような影響を与えるかについて明らかにする。20～60代の200名にアンケート調査を行った結果、コミュニケーション相手としては父母や配偶者が特に多く、また配偶者との会話と2回目までの接種までの関連が示唆された。新型コロナワクチンに関する話題の情報源ではTVニュースからの情報が最多であり、SNSは年代によって有意差が見られた。1～2回めの接種経験への印象と3回目接種の意向では、接種してよかったという層は3回目接種の希望が有意に多かった。これらの結果から、新型コロナワクチン接種の呼びかけに有効な情報発信の手段について検討する。

キーワード：ワクチン接種、情報収集

How is the decision to vaccinate against new corona made - sources of information, people to talk to, own experience

MAKOTO WATANABE^{†1} AKIKO ORITA^{†1}

Abstract: This study will determine the influence of media contact and communication with real-life counterparts such as family members, friends, and acquaintances on the decision to receive the COVID-19 vaccine. The results of a questionnaire survey of 200 respondents in their 20s to 60s indicated that parents and spouses were particularly common as communication partners, and that conversations with spouses were associated with up to the second vaccination. The most common source of information on the topic of the COVID-19 vaccine was TV news, and significant differences were found in the use of social networking services (SNS) by age group. Based on these results, information dissemination regarding the vaccine will be discussed.

Keywords: Vaccination, Information source

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症が蔓延する状況において、ワクチン接種は感染拡大を止めるための重要な方策の一つである。日本では、新型コロナによる死亡者や重症者の発生をできる限り減らすことでまん延の防止を図ることを目的として、予防接種法附則第7条の特例規定に基づいて実施され、2021年2月より医療従事者の優先接種からワクチン接種を開始した。2021年12月からは、3回目の追加接種（ブースター）も開始した。いずれも、その費用は国が負担しており、また努力義務はあるものの接種は強制されない。

新たな感染症およびワクチンの情報は、テレビやインターネットを介して多く伝えられており、中にはワクチンによる不妊や抗体依存性感染増強（ADE）を強調しワクチン接種を忌避させようとするものもある。このように様々な情報が提供される中で、自身や家族のワクチン接種の判断は、どのような情報をもとになされているのだろうか。特に若者に向けては、InstagramやTwitterなどのSNSによる発信が有効だと考えられがちだが、自身の健康や命に関わる、ワクチンに関する情報もそうなのだろうか。

本稿では、まず新型コロナに関する情報収集の状況を整理した上で、ワクチンの接種状況および周囲とのコミュニケーションの状況や情報源に関する調査の結果を示し、今後ワクチン関連情報を発信する上での効果的な方策を検討する。

2. 新型コロナワクチンに関する情報収集

2.1 日本における新型コロナワクチンの状況

2022年5月時点において、日本で新型コロナのワクチンとして薬事承認され予防接種法に基づいて接種できるワクチンは、次の3種類である。ファイザー社のコミナティ（mRNAワクチン）、武田/モデルナ社のCOVID-19スパイクバックス（mRNAワクチン）およびアストラゼネカ社のバキスゼブリア（ウイルスベクターワクチン）。いずれも接種回数は2回であり、原則として2回とも同じワクチンを接種する。2021年12月からは、3回目の追加接種（ブースター）が開始された。これは、2回接種後に感染予防効果や、高齢者の重症化予防効果が経時的に低下していくことや、変異ウイルスにも対応するものであり、2回目接種後6

¹ 関東学院大学 人間共生学部
Kanto Gakuin University, College of Human Symbiotic Studies

ヶ月経過後に受けることができる[1]。ワクチンはファイザー社もしくはモデルナ社のいずれも選ぶことができる[2]。2022年5月上旬時点において、日本国内で新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）のワクチンの接種を2回受けた人は、101,532,326人（人口の80.2%）であり、3回目の追加接種を受けた人67,264,156人（人口の53.1%）となった[3]。ただし、これを接種対象者の比率で見ると、4月時点では累計79.7%に留まっており、接種できる状況の人が全て追加接種を受けている訳ではない[4]。特に4月上旬には、若い世代ほど3回目接種が増えず、20%台に留まっていることが報道された[5]。

2.2 日常的な情報収集の方法

昨今では情報発信における有効な媒体はSNSであると考えられることが多く、特に若者に向けてはInstagramやTwitterが効果的であるという認識が強い。実際、情報通信白書によれば20代のテレビのリアルタイム視聴は、平日1日あたり88分である一方、ネット利用は255.4分である。30代、40代ともにネット利用時間の方が長い、50代と60代では逆転し、テレビ利用時間の方が長い[6]。目的別のメディアの利用を見ると、「世の中のできごとや動きについて信頼できる情報を得る」媒体としては、20代ではテレビが42.3%、インターネットが43.2%とほぼ同じであったが、それ以外の年代ではテレビが5割から6割と最多であり、インターネットは1~3割に留まった。一方で「趣味・娯楽に関する情報を得る」媒体としては、どの年代もインターネットが最多であり、7~8割程度を占めた（ただし、60代のみ4割弱であった）[7]。

2.3 新型コロナおよびワクチンに関するデマ

新型コロナに関するデマや誤情報は、2020年頃から出回っていた。2020年6月に総務省が発表した調査によれば、新型コロナウイルス感染症に関する情報やニュースを見聞きしたメディアのうち、信頼できる情報源として挙げられたのは「NHK」(43.7%)、「政府」(40.1%)、「民間放送」(38.0%)であり、誤った情報を見聞きしたメディアで最多だったのはTwitter(57.0%)であった[8]。この調査では、SNSについて、新型コロナに関する情報源としての利用度・信頼度がそれほど高くないものの、若い世代の利用度は高く、影響力が多いと考察していた。

新型コロナワクチンに関しては、厚生労働省が「注意が必要な誤情報」をまとめ、PDFで公表している[9]。ここに挙げられた誤情報は、いずれもワクチンの有害性を強調するものであった。

3. 調査

3.1 調査概要

自身の健康や命にかかわる情報は、どこから得られているのだろうか。見知らぬ他人からの情報よりも、血縁関係にある人や身近な人からの情報の方が信頼できるのではないかと。言い換えれば、どんな人と積極的にコミュニケーションを取っているかでワクチン接種への印象や接種率が違う可能性がある。また、「若者のテレビ離れ」とも言われるが、よくスマホを使うことと、そこから発信される情報を信頼していることはイコールではないのではないかと。

こうした疑問を踏まえて、20代から50代の男女200名を対象にオンラインアンケートを実施した。調査概要は表1の通りである。回答者のうち、1回でもワクチンを接種した人の割合は88.5%であった。具体的には、新型コロナワクチンに対する意向への影響について、自身や周囲の人が実際に接種を行ったかや、家族や友人・知人と話すかどうか、またその情報の発信元について質問した。

表1 調査の概要

調査時期	2022年2月3日~2月8日
回答数	200件（性別・年代50名ずつ均等割付）
調査方法	楽天インサイトによるWebアンケート
回答者の接種状況	3回 5.5% 2回 78.0% 1回 1.0% 接種していない 11.5%

本調査のリサーチクエスションは以下の通りである。

RQ1. 家族の中で誰と新型コロナやワクチンについて話すかによって接種に関する行動に差はあるか。

RQ2. 友人・知り合い間で新型コロナやワクチンについて話すかによって接種に関する行動に差はあるか。

RQ3. 家族や友人・知り合いと新型コロナワクチンについて話す際の話題はどの媒体から得た情報か。

RQ4. 3回目接種の意向について何が影響しているか。

3.2 調査結果

3.2.1 年齢別の接種率

本調査における年齢別の接種率は図1の通りであった。この調査の回答者では、30代の接種率が他の年代と比べて低かった。

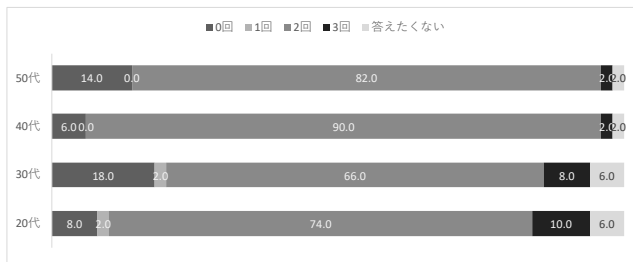


図 1 回答者の年代別の接種状況

3.2.2 ワクチンについて誰と話すか？

・家族

まず、新型コロナやワクチンについて誰と話すか、家族の観点について示す。事前に「現在、ご自身にとっての「ご家族」として、当てはまる方を全て選んでください。同居・別居は問いません。」という質問をした上で、当てはまると回答した相手とのやりとりについて尋ねた。それぞれの人数および話す頻度についてエラー！参照元が見つかりません。に示した。「新型コロナウイルスやワクチンに関連する話題をご家族や同居している方と話したことはありますか。」という問いに対しては、「よく話す」と回答した相手では「配偶者」「父母」が人数では多く、頻度に関しても「配偶者」が最多であった。

年代による有意差は見られなかった（ただし、息子・娘およびその配偶者は、年代による影響があるため除外した）。性別による有意差も見られなかった。

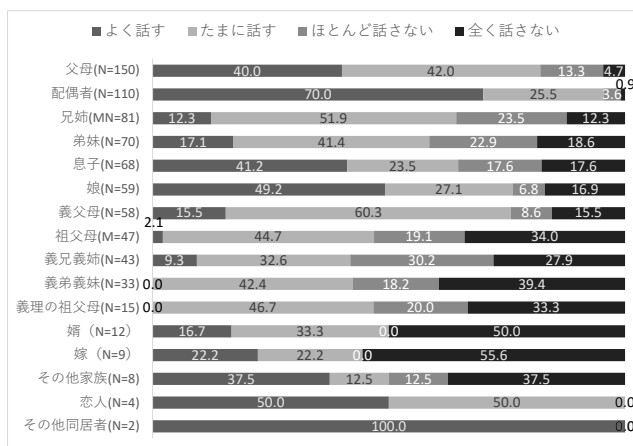


図 2 ワクチンについて話す相手と頻度

自分自身のワクチン接種状況とのクロス集計では、「配偶者」(N=110)「その他家族」(N=8)にて有意差が見られた(p>.01)。「配偶者」の結果を表 2 に示す。

表 2 ワクチン接種状況と配偶者と話す頻度のクロス集計 (p<.01 有意差あり)

	よく話す	たまに話す	ほとんど話さない	全く話さない
0回(N=13)	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%
1回(N=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2回(N=88)	70.5%	25.0%	4.5%	0.0%
3回(N=3)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
答えたくない(N=4)	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%

・友人

友人・知り合いと新型コロナやワクチンについてどの程度話すかについては、全体では「よく話す」25.0%、「たまに話す」51.5%、「ほとんど話さない」15.5%、「全く話さない」8.0%であった。年代および性別による有意差はなかった。一方、自分自身の接種状況とは、クロス集計の結果、有意差があった(p<.01)(図 3)。友人・知り合いと話すという人ほどワクチンを接種していることが分かる。

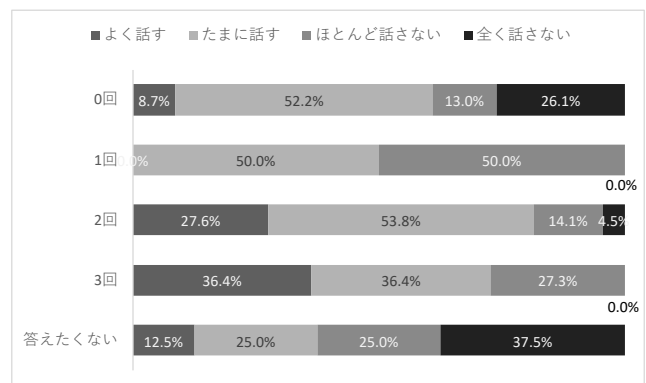


図 3 友人と話すかと自身の接種状況

3.2.3 ワクチンに関する情報源

・家族

家族と新型コロナやワクチンについて話す際に、どの媒体から得た情報を話題としているか複数回答で聞いた。その結果、「TV ニュース」が最も多く、80.9%であり、「ネット記事」52.0%「ワイドショー」33.5%となった。年代別のクロス集計では、「SNS」のみ有意差が見られ(p<.01)、20代37.2%、30代27.9%、40代13.3%、50代9.5%と若い世代ほど多かった。

性別では「TV ニュース」で男性72.8%、女性80.9%、「知人」で男性18.5%、女性5.4%と有意差が見られた(p<.01)。

自分自身のワクチン接種状況による有意差は見られなかった。

・友人

友人と新型コロナやワクチンについて話す際に、どの媒体から得た情報を話題としているかについては、こちらでも同様に「TV ニュース」の回答数が最も多く、82.4%となった。家族との話題と同様に「ネット記事」46.4%「ワイドショー」34.6%の回答数が多かった。年代別のクロス集計では、「SNS」のみ有意差が見られ(p<.01)、20代 35.0%、30代 28.6%、40代 11.9%、50代 8.3%と若い世代ほど多かった。性別による有意差はなかった。

自分自身のワクチン接種状況による有意差は見られなかった。

3.2.4.3 回目接種について

3回目のワクチン追加接種への意向について、「あなたご自身は、3回目の新型コロナのワクチン接種を受けたいと思いますか。未接種の方は、今後1回・2回接種も含めて3回目を受ける想定でお答えください。」という設問に対して、「とても受けない」「やや受けない」「どちらでもない」「あまり受けない」「絶対受けない」「わからない」の6つから回答者に選択してもらった。

・家族

新型コロナやワクチンについて家族の誰とどの程度話すかの結果と、3回目接種への意向とクロス集計を行った。その結果、全ての相手において有意差は見られなかった。

・友人

友人・知り合いと新型コロナやワクチンに関する話題を話すかどうかと、3回目接種への意向のクロス集計では、有意差は見られなかった。また、自身の接種状況を話すかどうかと、3回目接種への意向においても有意差は見られなかった。

・情報源

家族との話題における情報源と3回目接種への意向を聞く設問の回答とのクロス集計の結果、「TV ニュース」でのみ有意差が見られた(p<.01)。TV ニュースを話題の情報源としている34.3%が「とても受けない」、23.6%が「やや受けない」と回答した。

・1~2回めワクチンへの印象

3回目の接種の効果への期待と自身のワクチン接種後の印象のクロス集計の結果、有意差が見られた(p<.01)。ワクチン接種後の印象において「接種してよかった」と回答している人ほど、3回目の接種の効果に対して期待がみられた(図4)。

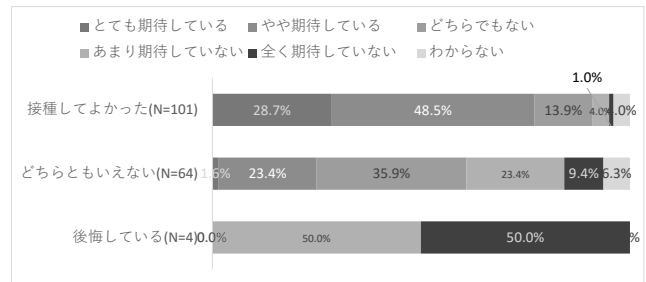


図4 これまでの接種経験と3回目への期待

また3回の接種を受ける意向と、自身のワクチン接種後の印象のクロス集計でも有意差が見られた(p<.01)(図5)。

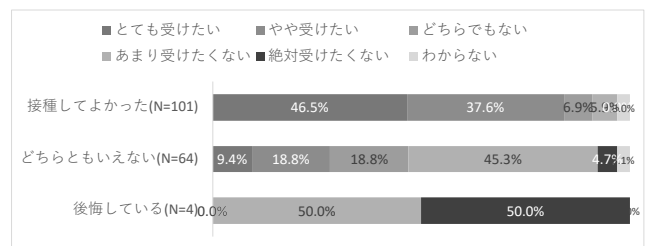


図5 これまでの接種経験と3回目の意向

3.3 考察

それぞれのリサーチクエストに基づいて結果を考察する。

RQ1. 家族の中で誰と新型コロナやワクチンについて話すかによって接種に関する行動に差はあるか。

「父母」と「義父母」、「兄姉(弟妹)」と「義兄姉(義弟妹)」等と比べると血族にある「父母」「兄姉」「弟妹」が多くなるが、姻族となる「配偶者」と話す人も多かった。表2からワクチン接種状況と配偶者と話す頻度で有意差が見られた。ワクチン接種が0回の人と1人以上の人で大きく差があり、配偶者と話すことがワクチン接種の決め手になる可能性があると考えられる。

しかし、3回目の接種の判断においてはどの関係の相手においても有意差は見られず、3回目の接種に関しては「誰と会話をするか」という観点における影響がないものと考えられる。

RQ2. 友人・知り合い間で新型コロナやワクチンについて話すかによって接種に関する行動に差はあるか。

友人・知り合いと自身のワクチン接種状況について話す人ほど、ワクチンを接種している人が有意に多く、新型コロナやワクチンに対して自分自身と近い考えや境遇にある人と話す傾向にあるのではないかと考えられる。

3 回目のワクチン接種を希望するかどうかのクロス集計では有意差が見られなかったことから、3 回目のワクチン接種には友人・知り合いとの新型コロナやワクチンに関する会話の頻度は関連性がないと考えられる。

RQ3 家族や友人・知り合いと新型コロナワクチンについて話す際の話はどの媒体から得た情報か。

家族、友人・知り合いどちらの場合でも多くは TV ニュースから情報を得ていることが分かった。3 回のワクチン接種を受ける意向とのクロス集計でも TV ニュースで有意差が見られたことから、新型コロナやワクチンについての信頼できる情報は TV ニュースから得ていることが考えられる。また、ワクチンについて話す話題の情報源として、世代別では若い世代ほど SNS を情報源とする割合が有意に高いが、3 回接種の意向とのクロス集計では有意差が見られなかったことから、SNS から情報を得るものの、あまり重要でない話題として捉えている可能性がある。

TV から発信される情報は、3 回目接種の有無と関連があることから信頼性が高く、一方で SNS はそういった判断に結びつくような情報を得る媒体としてみられていないことが考えられる。

RQ4. 3 回目接種の意向について何が影響しているか。

RQ1~3 の内容も踏まえ、ワクチンへの印象には影響を与えているが 3 回目接種の判断材料になる要因とならない要因があることが考えられた。

新型コロナやワクチンについて家族や友人・知り合いとよく話す人は、1,2 回目のワクチン接種の判断において大きく影響を与えていたが、3 回目の接種には影響が見られなかった。

また、新型コロナやワクチンの話題に関して「TV ニュース」「ネットニュース」「ワイドショー」から情報を得ている人が多かったが、3 回目接種の判断に影響を与えているのは「TV ニュース」のみとなり、TV ニュースからの情報が回数問わず重要性のあるものとして位置づけられていることが考えられる。

さらに、自身の 1,2 回目のワクチン接種後の印象と 3 回の接種を望むかにおいて有意差が見られたことから、3 回目の接種においては、自身の経験が大きく影響すると考えられる。これらのことから、まず接種するか否かでは信頼できる近しい相手と話すことが判断の一因となっており、3 回目の接種においては、自分自身のそれまでの経験と TV ニュースという信頼できる情報が大きな要因となっていることが考えられる。

4. おわりに

本稿では、新型コロナワクチン接種の判断において、実生活でのコミュニケーションや接触するメディアがどのような影響を及ぼすかについて、アンケート調査を実施した。実生活でのコミュニケーションでは、血縁者や同居者といった近い相手・社会的に近しい相手と相談する人が多く、それをワクチン接種の判断の一因としてしていると考えられる。接触するメディアにおいては、TV ニュースから情報を得ている人が多く、近年テレビ離れの問題も挙げられる中で、信頼性のある情報媒体として TV が一定の支持を受けているということもまた事実であると考えられる。一方で、若年層、特に 20 代は SNS から積極的に情報を得ていることが分かった。また、自身の経験がその後の意向にも影響を与えていることが見えてきた。

今後、こうしたワクチン等の情報を発信するにあたっては、「若者には Instagram」など手当たり次第に SNS で発信を行うのではなく、SNS の即時性や拡散力、また身近な人とのコミュニケーション手段であることを鑑みた上で、信頼できる情報や、個々の経験等を効果的に伝える発信が必要だと言えるだろう。

参考文献

- [1] 厚生労働省. 新型コロナワクチン Q&A 「追加 (3 回目) 接種には、どのような効果がありますか」 <https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0097.html>
- [2] 厚生労働省. 新型コロナワクチンについて https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html (閲覧 2022-5-4)
- [3] 首相官邸. 新型コロナワクチンについて <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html> (閲覧 2022-5-4)
- [4] 厚生労働省. 追加接種対象者数、接種回数及びワクチンの供給量 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000880779.pdf> (閲覧 2022-5-4)
- [5] NHK 首都圏ナビ. ワクチン 3 回目接種率 若い世代で低迷 東京都など関東地方の状況は 2022.4.12 <https://www.nhk.or.jp/shutoken/newsup/20220412a.html> (閲覧 2022-5-4)
- [6] 総務省. 令和 3 年情報通信白書 第 2 部第 2 節 (1) 主なメディアの利用時間と行為者率 https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/n_d242510.html (閲覧 2022-5-4)
- [7] 総務省. 令和 3 年情報通信白書 第 2 部第 2 節 (5) メディアとしてのインターネットの位置づけ https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/n_d242550.html (閲覧 2022-5-4)
- [8] 総務省. 新型コロナウイルス感染症に関する情報流通調査. 2020 年 6 月 https://www.soumu.go.jp/main_content/000693295.pdf (閲覧 2022-5-4)
- [9] 厚生労働省. 新型コロナワクチン(mRNA ワクチン)注意が必要な誤情報(2021 年 10 月 8 日版) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000829138.pdf> (閲覧 2022-5-4)